

アルゼンチンアリの防除対策

(1) 種名 (学名)

アルゼンチンアリ (*Linepithema humile*)

特定外来生物 (平成 17 (2005) 年 4 月指定)



(2) 生態の概要

- ・ 南米原産です。
- ・ 体長 2.5～3.0mm、外皮は軟らかく、黒褐色のアリです。
- ・ 温暖な条件では密な行列を作って素早く歩行します。
- ・ 国内では平成 5 (1993) 年に広島県廿日市市で定着が初確認されて以降、全国各地で確認されています。
- ・ 高い繁殖力を持ち、侵入地において在来アリ類を駆逐するなど生態系への影響のほか、家屋侵入により住民に精神的苦痛をもたらす衛生害虫です。
- ・ 海外では果樹への被害報告があります。



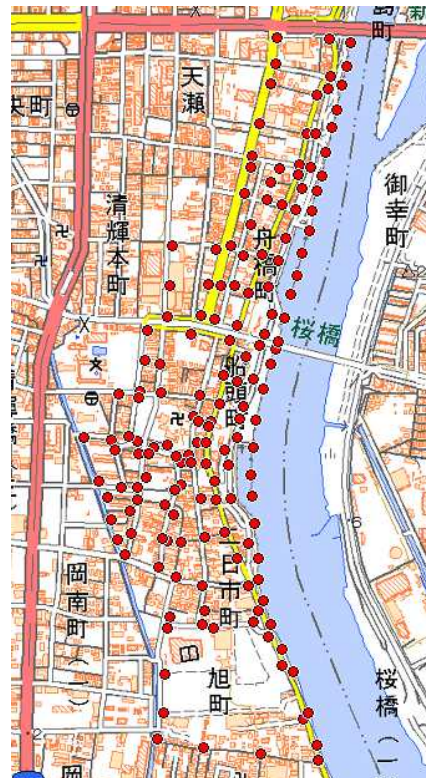
(3) 分布状況の概要

中国四国地方環境事務所管内では岡山県、広島県、山口県、徳島県で確認されています。

(4) 中国四国地方環境事務所の取組

平成 24 (2012) 年に岡山市内 (北区旭川右岸の 32ha) で初めて確認され、モニタリング調査を実施しました。平成 25 年から防除に着手しています (旭川河川敷の防除は岡山河川事務所が担当)。

岡山河川事務所、岡山県及び岡山市と中国四国地方環境事務所で「岡山市アルゼンチンアリ早期対策事業検討会」を組織し、毎年防除事業終了時に事業報告、次年度事業を協議しています。



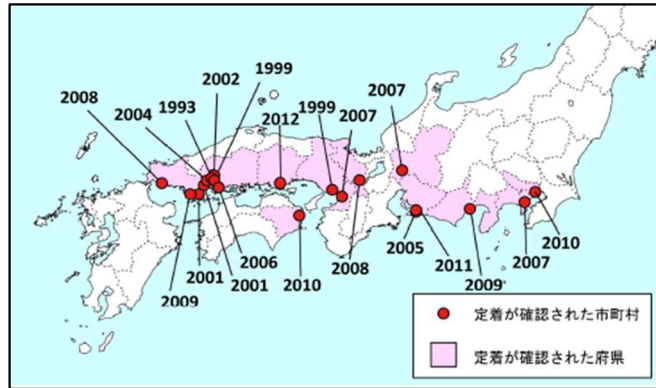
(5) 他機関、NGO 等の取組 (管内他地域の取組)

● 徳島県の状況

平成 27 (2015) 年度より徳島市津田海岸町の生息域 (約 10ha) において防除を実施しています。平成 28 (2016) 年 6 月、鳴門市と藍住町にまたがる生息域 (約 50ha) でも確認され、生物多様性保全推進支援事業により防除を実施中です。

● 広島県・山口県の状況

平成 5 (1993) 年、広島県廿日市市において、我が国で始めて定着が確認されました。廿日市市には木材輸入港があり、南米からの木材輸入に伴い侵入した可能性が指摘されていますが、事実関係は不明です。



平成 18 (2006) 年、広島県呉市から山口県柳井市にわたる広島湾沿岸部の調査を実施しました。広島県廿日市市、広島市、大竹市、呉市、府中町、山口県光市、岩国市、柳井市、宇部市で生息が確認されています。

広島県、山口県と関係市町村による「アルゼンチンアリ対策広域行政協議会」が、平成 20～22 年度に生物多様性保全推進支援事業を実施しました。

(6) 課題

岡山市のアルゼンチンアリ防除は、当事務所直轄事業として 6 年が経過しています。モニタリング調査では確認個体数は大きく減少し、内陸部では殆ど確認できない状況になっていますが (H30 河川近くの内陸部で確認)、河川敷では確認が続いており、根絶出来る見通しが立っていません (右グラフ)。岡山河川事務所とも協議の上、河川敷の取組の強化が必要です。

生物多様性保全推進支援事業を実施している徳島県を除いて、広島県、山口県の該当市町では、生息域の拡大防止、根絶に向けた活動の強化が必要です。

